

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2670700349		
法人名	ユニマツト そよ風		
事業所名	嵯峨野ケアセンターそよ風 1F		
所在地	京都市右京区嵯峨釈迦堂藤ノ木町19-1		
自己評価作成日	平成23年11月15日	評価結果市町村受理日	平成24年4月25日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2670700349&SCD=320&PCD=26
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 市民生活総合サポートセンター		
所在地	〒530-0041 大阪市北区天神橋2丁目4番17号 千代田第1ビル		
訪問調査日	平成23年12月21日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者様一人一人がゆったりとした時間や空間で職員とともに笑い楽しみ、また悲しみも一緒に感じられるように毎日を通して頂ける支援をしています。また、季節感が感じられるよう、食事や入浴、掲示板や居室などの写真や飾りを取り入れたり、イベントを企画したりして、そよ風で楽しく生活を送って頂けることにも力を入れて支援しています。また、認知症の症状にて忘れてしまわれる出来事もできるだけ、少しでも思い出して頂けるように写真をたくさん残し、感じて頂ける工夫をしています。センターの前で畑をお借りし、その季節に採れる新鮮な野菜を味わって頂いたり、緑いっぱいの環境を存分に感じて頂けるようにも努めています。これからも利用者様ご自分のペースで生活、毎日を通して頂けるよう、ご希望や要望を聞いたり、ご希望を聞きだせるような声かけの工夫など、職員間で情報共有をし協力しあって、ゆったりと自由な時間を過ごして頂くようにしていきたいです。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

自然豊かな嵯峨野の地に溶け込んで建てられた当該ホームは「穏やかで安らぎのある暮らし、ゆったりと自由な時間、地域と生きる私たち」と謳った理念を大切に、3ユニットの職員が互いに協力しながら、同じ方向性を持って支援しています。リビングからは大文字の送り火がまじかに見られ、家族会を開催して一緒に観賞するなど交流の機会となっています。職員は利用者が今までの生活の延長上で自由に過ごして貰えるようゆったりとしたケアの提供に努めています。文化祭や展覧会を地域に回覧して開いたり、フロア対抗の運動会等も行ない、活気ある生活も提供しています。ホーム職員が自治会の委員を務め、地域の祭り等の行事の手伝いに参加したり、地域の消防団との協力関係も築かれ、災害時にはホームが地区の一時的避難場所になる等、地域との相互の協力関係が構築されています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	朝礼時に理念を唱和し、認識を深め、意識的に取り組みサービスやケアの向上につながる様、努めている。	「穏やかで安らぎのある暮らし、ゆったりと自由な時間、地域と生きる私たち」との理念に即した実践がなされているか、月1回の全体会議で話し合い、確認しています。地域の行事への参加などを通して、地域の中で暮らしている実感を持ってもらえるよう取り組んでいます。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内や自治会への参加、委員を務め、また地域主催の敬老会やお祭りへの参加、お手伝い、また逆にセンター主催のそよ風文化祭などのイベントに地域の方をお誘いし、交流を図る取り組みをしている。	職員が自治会の委員を務めており、祭り等の行事の手伝いをしています。地域にホームの文化祭やおやつバイキングなどの案内を回覧し、近隣の親子連れなどの参加を得ています。近隣から柿や野菜をもらったり、散歩道で犬と触れ合うなど、地域に根付いた交流を行っています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方を招いて認知症ケアサポーター講座を開いたり、運営推進会議を開き参加して頂いて、認知症への正しい知識を少しでも多くの方へ広める努力をしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	毎月の行事報告などをさせて頂き、他施設の現状や意見等を聞かせて頂き、サービスの向上に努めている。	運営推進会議は、家族や社会福祉協議会会長、民生委員会、地域包括職員等の参加の下、不定期で開催しています。ホームの状況や事故報告を行ない、意見や提案が出されサービスに反映しています。会議録は請求書と一緒に家族に送付すると共に、今後は定期開催を予定しています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	地域ケア会議が開催される場所として協力、参加する事で地域包括の方と連絡を密に取り組んでいる。	運営推進会議録を直接届けたり、資格取得や事故報告、人員配置などについて相談しています。又市役所で行なわれるケアマネ連絡会への参加など協力関係を築いています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	防犯上玄関はオートロックとなっているが、館内は各階職員が連絡を取り合うことで利用者様は自由に行き来しておられる。就寝時の四点柵については少しでも減らす方向へ行くようにカンファレンスや会議など、記録等においてもしっかり残し、職員の意識を高め、なくす努力をしている。	身体拘束についての研修を行ない、全職員に周知できるよう取り組んでいます。玄関は家族に説明の上、施錠していますが、各フロア間は自由に行き来出来る様開放しています。外へ出たような気配を感じたら、職員と一緒に外へ出たり、洗濯干場などで気分転換を図るなど、拘束感のないよう努めています	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	言葉の暴力を含め、虐待が見過ごされないよう、スタッフ間での声かけを行い、常に注意を払っている。管理者による勉強会が過去に行われ、職員間での意識向上があった。現在、会議やカンファレンスにおいても意識の再確認する機会を多く作っている。		

嵯峨野ケアセンターそよ風(1F)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度など、実際に利用されている利用者様もおられるが、研修などに参加してより、スタッフの知識を増やしていきたいと思っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時に十分な説明をさせて頂き、理解して頂けるように努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	匿名で家族様へアンケートをとったり、家族会を開催し、意見を聞いたり、来訪時の会話の中で、ご意見をお聞きし、反映させるようにしている。	年1回大文字の日に行われる家族会や面会時に、意見や要望を聞いています。食事のメニューを知りたいとの希望など、出された意見や要望は、ミーティングで話し合い反映させています。又、家族にも改善策などを伝えていきます。今後家族へのアンケート調査を定期的実施する方向にあります。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に一度、全体会議があり、意見交換の場がある。スタッフより多くの意見が出るがなかなか意見が反映されないと感じているスタッフもいる。	ミーティングで様々な意見や提案が出されています。人員配置に付いてなど出された意見はリーダーから管理者に繋げられ、運営に活かされています。年1回、施設長が行う個別面談時にも意見を聞き、意見を反映することで職員の意欲の向上に繋がっています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	スタッフと日頃の会話の中でケアについてや努力など、話す機会があり、周りの方に広めている努力はしているが、職員個々の努力を評価、反映している形とはいえないと感じているスタッフもいる。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	一人一人まではまだ行き届いていないが、各自の能力が発揮できるよう研修に参加できる体制作りをしている。支社長が会議に出席したりし、研修を行い、昨年と比較してかなりよくなっていると感じられる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	委員会や研修、親睦会などを企画行い情報交換を行っているが、参加人数が少なかったり、同じメンバーが積極的に参加している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人からお話をよくお聞きし、少しでも不安がやわらぐよう、職員間で新しい入居者様の情報交換ノートを作り、スタッフの気付きや情報を共有し、ご本人の安心につながるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	センター長が実調を行い、家族様の要望をお聞きし、お応えできるようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	十分にお話をお聞きしたり、会話の共通点、過去の話など、によって関係作りにつとめ、今、何が必要としておられるのかにおいてもそれを見極め、他のサービスの利用も含め、選択して頂いている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様にはできることは積極的にご自分でして頂き、できないことを手助けできるようケアしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	大文字鑑賞会には家族会を開催し、家族様同士の交流もはかっている。また、職員とは面会時にいろいろと話す機会があり、日頃のことなど、気軽に話せる関係や時間を作れるよう努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族様、ご友人、ご親戚の方が来訪されたときには居室やリビングにてゆっくりとくつろいでお話、過ごして頂けるように心がけている。	家族や友人とカラオケに行ったり、知人がホームを訪れています。かかり付けの歯科医院を家族と一緒に受診したり、ドライブで懐かしい我が家を見に行く事もあります。年賀状の購入や投函などの支援も行い、馴染みの関係が続けられるよう努めています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士の関係を把握し、さりげなく会話の内容や表情を見守り、スタッフ間で意見を共有しながら、利用者様同士が楽しく、生活できるように配慮している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去された方の家族様がピアノコンサートを開いてくださったり、退去後、入院された方のお見舞いや手紙交換など、生活の中で少しでも支えられるよう、努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	カンファレンスなどで一人一人について話し合ったり、穏やかに過ごせるように、本人の意向に沿えるように心がけている。	入居時に聞き取った生活歴や生活情報などを記入した情報シートや利用者の日々の言動で気付いた事を記入した申し送りノート等を参考にカンファレンスを開催して職員間で共有し、一人ひとりの思いや暮らしの意向の把握に努めています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族様からの情報を職員共通認識し、又、ご本人からいろいろなお話をお聞きし、ご本人らしい生活を送って頂けるよう配慮している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者様の状況をスタッフ全員で把握できるように申し送りノートや介護記録を使い、努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者様の状態をスタッフ全員で把握できるように申し送りや申し送りノート、介護記録などにより情報を共有している。	利用者や家族の意向を下にケアプランを作成しています。3ヶ月毎にモニタリング・評価を行い、カンファレンスを開催し、医師の意見も反映してケアプランの見直しを行っています。職員間での情報共有やプランの変更などに繋げやすいよう記録などの様式の変更を行っています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	その都度声かけ、伝えたり、個別に介護記録を作成し、申し送りノートに記録する事で情報を共有し、介護計画に反映させている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	そのフロアだけの問題点とせず、全館をひとつとして意見を出し合い、意見交換し、柔軟なサービスにつながるように努めている。		

嵯峨野ケアセンターそよ風(1F)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	関係各機関との連携を図り、支援させて頂いている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月に二度、提携協力病院の往診、歯科医に往診して頂いている。また、ご家族やご本人が納得された医師に診て頂いている方もおられる。	今までのかかりつけ医の継続が出来る事を伝えていますが、殆どの方が納得の上で24時間対応可能な協力医に変更されています。受診は職員が同行して状況報告を行い、医師から指示を貰うなど連携を図っています。歯科医などの専門医の往診もあります。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	提携協力病院の看護師に往診や電話にて、相談指示を頂いている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には情報交換を蜜に行い、退院後はサマリーを頂き、退院後の生活に支障がないようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合や終末期のあり方など、センターとしてなかなか話し合いのばを作れておらず、センターとして共有できていない。	入居時に重度化した場合にホームで対応できる範囲などに付いて説明しています。家族の希望があり、医療的に可能であるとの医師の判断があれば、出来る限り看取りの支援をする方向にあります。職員の不安等に付いてもカンファレンスで話し合い、看取り支援の体制作りを今後の課題として取り組んでいます。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	訓練を通じて実践力を身につけるよう努めているが、訓練内容が書面でのちに回覧にまわすが、全員が訓練に参加できておらず、身につけているとはいえない。また、訓練が全員参加できる工夫やしぐみ、体制、意識が必要。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に避難訓練や消防訓練を行っている。また、地域ケア会議などで、非常時の対応について協力をいただける様に見学を含め声かけを行っている。	年3~4回、消防署立会いの下やセンター独自で、夜間を想定して避難訓練を実施しています。出火場所の特定や初期消火、館内連絡の確認などを地域の消防団の参加も得て行っています。また地域の防災訓練に参加したり、災害時は地域の人達の一時避難場所としてホームを提供するなど協力関係を築いています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉遣いについて接遇マナーについても共通意識を高めている。また、利用者様ひとりひとりにあわせた声かけをしたり対応している。	センター長は利用者の人格を尊重した接遇をするように、全体会議や朝礼時に伝えると共に、職員間で話し合っています。言葉使いや名前の呼び方、トイレ時の声掛けなどに配慮しています。不適切な言動があれば、その都度注意しています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご自身で洋服を選んで頂いたり、飲み物や食べ物についてもお好みのものを選んで頂いたりしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	できるだけ、その人らしい生活が送れるようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	月に一度、出張美容室に来て頂き、整髪して頂いている。お化粧をしたいという方がおられるので、できるようにフォローしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	盛り付けや配膳など、出来る方にはお手伝いして頂いている。スタッフは一人ひとりの好み、嚥下力を把握し、食べやすく切ったりしている。また食欲がそそるように美味しそうと感じていただけるよう盛り付けや色彩に気を配ったり、職員と一緒に食卓を囲み、食事を頂いている。	週3回スーパーから食材が届き、各フロアで利用者の好みに合わせて献立を変更する事もあります。もやしのみげ取りや皮むき、盛り付け、食器拭きなど利用者の出来る事に携わってもらっています。出前寿しを取ったり、誕生日の希望食の提供やおせち作りなどを一緒に行っています。職員は会話をしながら楽しい食事時間となるよう支援しています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人一人の摂取量などを調節して提供している。また、一日の水分量などを記録し、スタッフ全員が情報共有できるように努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時と夕食後は全員行っている。ご自身でできる方はその都度、されたり、誤嚥の恐れがある方は毎食後個別対応でさせて頂いている。		

嵯峨野ケアセンターそよ風(1F)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者様の排泄を記録することで、排泄リズムを把握している。排泄の失敗やオムツ(パッド)交換、トイレリードにあわせ、利用者様に添った声かけをしている。	排泄チェック表を下に個々の排泄パターンを把握したり、利用者の様子やサインを見逃さないよう支援しています。パットの種類を工夫したり、オムツから紙パンツ、さらに布パンツへと変更になり、夜間はポータブルを使用する事でほぼ自立された事例があるなど、自立に向けた支援を行っています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	内服に頼らず、まず、飲食物などの繊維類の多いものを摂って頂くように心がけたり、便秘の原因となる、水分や歩行運動、ヨーグルトやミルクなど、様々な工夫を試し、便秘にならないように努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	時間帯は日中に限られているが、その中で利用者様の希望に添えるようにしている。入浴剤の利用や、その人の好みにあった湯温や時間に添えるよう努めている。	午後1時半から4時頃までの間で希望に沿って、週に2、3回入浴してもらおうよう支援しています。入浴を拒む方はほとんどなく、利用者は好みのシャンプーやリンスを使用したり、季節の柚子湯や菖蒲湯などの楽しみ事も行いながら支援しています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者様のその時々々の体調や状況に応じた休息、入床への声かけを行っている。またご自身から疲れを訴えたり、横になつたりできない方には表情をキャッチし、昼寝にリードしたりしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	配薬時にはスタッフに薬剤情報を回覧し、理解し、又、利用者様の日々の行動や症状の変化についてのスタッフとの情報共有を蜜にし、医師や看護師への相談など常に気を配り、利用者様が安心して健康な生活が送れるように心がけている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	おやつを選んで頂いたり、生活の中でして頂けることは出来るだけして頂き、その方が達成感ややりがいを感じられる様な声かけや役割の振り分けを支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	脚力のある方は出来るだけ、少しでも散歩にお誘いしたり、外に行ける体力があまり無い方はフロアにとどまることのないように館内であっても散歩にお誘いしたり、個別に対応している。外出は好きな時間に添うことが少し難しいが行ける場所はできるだけ添えるように努めている。	天気がよければ、日々ホームの周りを車椅子の人も一緒に散歩しています。ドライブや植物園、紅葉、家族や職員、さらに職員の家族も参加して、嵯峨野祭りの神輿を見に行っています。玄関前に寛ぎのスペースが設けられ気分転換などに利用されています。	

嵯峨野ケアセンターそよ風(1F)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	日常ではなかなかお金を使う機会がないが、レクやイベントなどを通じてお金を使う機会や場面を設定し、支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	文字を書けない方や、手紙を億劫と感じられる方もおられるが電話であれば、相手に伝わりやすいのでできるだけその様な機会や場面作り、その方にあった支援をしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室内や共有空間での空調温度や室内の照明、香り、又生花などで季節感を取り入れ感じていただけるように努めている。	五山の送り火が見える広いリビングは、落ち着いた雰囲気となるよう装飾にも気を配っています。ソファや椅子、マッサージ機など、利用者がその時の気分で思い思いに過ごせる様、配置を工夫しています。テレビも付けたままにせず、静かな時間も持てるよう配慮しています。オルガンが置かれた廊下の図書コーナーは寛ぎのスペースとなっています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間と居室を自由に行き来されていたり、利用者様がどこにおられたり、話されたりしているか、スタッフが常に把握に努め、すぐにフロアに入ったりできている。また、共有空間では時々席替えなどを行い、快適に過ごせるよう努めている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に利用者様の使い慣れたものや家具、お好みものを持ってきて頂き、居心地よく過ごして頂けるように工夫している。一緒に居室内の掃除や写真たてなどを見ながら思い出話など、傾聴も行っている。	個室は全室南向きで日当たりがよく、環境の変化が少ないよう使い慣れたテーブルや椅子、テレビ、嫁入り道具の鏡台や孫の写真等を持ち込まれています。また、家族が持参した生花や仏壇など、利用者が安心して居心地よく過ごせるように配慮しています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	「できる事」「わかる事」を安全且つ自立を高める形で行っていただけるよう、文字や絵で場所を表示したり、簡単な案内を作ったりしている		